

心の栄養剤 No.245 『愛とは覚悟』

数年前のことである。とある全国紙の読者欄に載っていた50代の女性の投稿を今でも覚えている。「数ヶ月後に出産を控えた娘から電話があった」という書き出しだった。

娘さんは「お医者さんから、胎児に異常があると言われた」と言って、電話の向こうで泣いていた。そんな娘が不憫に思えて、母親である彼女は中絶を勧めた。しかし、娘さんはこう言ったのだ。

「診察のとき、画像に映る赤ちゃんの心臓の鼓動にいとおしさが込み上げてきたの。産んでもいいでしょ」

1週間後、娘さんが里帰りした。電話口で泣いていた娘とは打って変わって、気丈に振るまう姿に、母親は驚いた。

娘さんは笑顔で言った。

「お腹の子はね、親を選んで生まれてくるんだって。私たち夫婦は優しいから選ばれたんだよ」

母親の耳にそれは、娘が自分自身に言い聞かせているように聞こえた。

2、3日実家に滞在した。そして嫁ぎ先に帰る前日の夜、娘さんは、「お父さん、お母さん、初孫が障がいをもっていてごめんなさい」と言って、深々と頭を下げた。

この一言を伝えたくて里帰りしたのだと、母親は悟った。その言葉に娘の覚悟を知った。あの気丈に振るまう娘の姿は、「産んで育てる」という覚悟をした母の姿だったのだ。

我が子の大変さばかりを考えて、今お腹の中で必死に生きている生命の尊さを見失っていた。母親は、安易に中絶を勧めた自分を恥じた。そしてこう綴ってあった。

「私も腹をくくった」

愛とは、まさに覚悟なのだ。その重みを考えると、気軽に、気安く、「愛してる」なんて表現できるものではないのかもしれない。

まだ「愛」とか「愛する」という概念がなかった昔から親はそんな言葉を使わなくとも、「愛する」という言葉以上の愛情表現をその生きざまの中で見せていました。それが覚悟だった。

つらくても、怖くても、貧しくても、自分の命に代えてでも守り抜くという覚悟は、未来永劫、親から子に受け継がれていくのだろう。

深い話で～心に響きました！！

私達夫婦の子どもは男の子2人で、女の子は授かっていないので、本当の所は分からぬのですが、もし私が自分の娘から相談を受けたとしたら、きっと中絶を推めてしまうんだろうと思います。

尊敬する明治維新の英雄、吉田松陰先生の処刑（死）前の辞世に、

「親思う心にまさる親心 今日の訪れ何ときくらん」がありますが、親の立場としては少し寂しいですが、「親思う心にまさる親心……」というのは真実～現実であり、そうであるからこそ、人の命は続いていくんだろうと思います。

「母は強く、そして美しい！！」

今年も気付けば早いものあとひと月になります。

いい機会と思って一年を～人生を振り返り、母に両親にそして祖先にしっかりと感謝し手を合わせ、輝かしい新しい年を迎える準備をしようと思います！！

●毎週（基本金曜日）には配達に出掛けておりますので、お気軽に申し付け下さい！！

●店休日（日・祝）に御用がある方も、自宅在宅時（店舗裏）には対応しておりますので、お気軽にお電話下さい！！

くすりのキュート 倉光 浩城

TEL (090-8357-2904)

